

詩篇119篇97-100節「御言葉を愛する」

1A 愛してやまない御言葉 97

2A 賢くする仰せ 98-100

1B 敵よりも 98

2B 師よりも 99

3B 老人よりも 100

本文

私たちの聖書通読の学びは、今、詩編 119 篇に入っています。先々週、88 節まで読むことができましたが、今日は午後に 89 節から最後まで読みたいと思います。今朝は、交読文で読みました 97 節から 104 節のうち、特に 97-100 節までに注目したいと思います。

1A 愛してやまない御言葉 97

97 どんなにか私は、あなたのみおしえを愛していることでしょう。これが一日中、私の思いとなっています。

詩篇 119 篇の後半をざっと読むと、ここに出てくる「愛」の言葉が何度か出てきます。主の教え、主の言葉を愛しているという内容です。後半部分だけで、9 箇所も出てきます。例えば 113 節、「私は二心の者どもを憎みます。しかし、あなたのみおしえを愛します。」127 節、「それゆえ、私は、金よりも、純金よりも、あなたの仰せを愛します。」159 節「ご覧ください。どんなに私があなたの戒めを愛しているかを。主よ。あなたの恵みによって、私を生かしてください。」などです。いかがですか、まるで恋人と一緒にいるかのように、主の言葉を愛していますね。

ヘブル語には、「愛」という言葉がいくつかありますが、有名なのはヘセドという言葉で、契約に基づいた、忠誠を尽くす愛です。妻が夫に尽くす愛、神がいつまでも真実を尽くしてご自分の民を愛する愛です。ここでは別の言葉が使われています。「アハバ」です。イスラエル旅行に行かれた方は、死海クリームの商品で AHAVA というブランドをご存知だと思います。「愛」という意味ですが、これは「理由なく好き」という愛です。誰かが好きな時、何か理由があるから好きなのではなく、ただ好きで愛しています。ですから、詩篇の著者は今、御言葉が好きで好きでたまらなくて、一日中、それが自分の思いとなっていると告白しているのです。

私は先週の月曜日、映画を観ました。クリスチャンの間で話題となった映画だったからなのですが、正直、鑑賞はお勧めしない映画です。暴力の描写が強いからです。邦題は、「ザ・ウォーカー」というものです。けれども、原題は“The Book of Eli”であり、「エリ(イーライ)の書物」と訳すことができます。最終戦争が起こって荒廃してしまった世界で、その戦争の時に人々は書物を燃やし尽く

してしまい、生き残った人々の子孫は文盲になっています。荒廃しきった世界で人々は弱肉強食で生きていました。けれども主人公であるエリは、一つの書物を毎日読んで、祈っています。それは聖書でした。もう一人悪役のカーネギーも文字を読むことのできる生き残りですが、彼はこの書物を手に入れば再び文明を造ることができると思っています。けれども、それは聖書の言葉の権威を使って人々の思いを操作して、支配することができると思ったからです。それで、エリの書物を奪い取ろうとして戦います。

文字通り、聖書を、命をかけて守ったエリでした。けれども、彼は途中で気づきます。聖書を読むことに集中していたが、この中に生きていなかったと告白します。その時に一人の女の子の命を救うために聖書をカーネギーに手放します。けれども実は、彼は一字一句、聖書の言葉を心の中、思いの中に入れており、それを最後に他の人が書き出すことに成功しました。聖書というものが、いかに貴重な言葉であるかを教えようとしている映画です。

これはエンターテインメントの映画ですが、これは実に世界の歴史を形作るのに用いられた著名人たちが一様に告白している言葉です。引力の法則を発見したアイザック・ニュートンは、「**いかなる世界の歴史におけるよりも、聖書の中にはより確かな真理が存する。**」と言いました。奴隷解放宣言をしたアメリカの大統領リンカーンは、「**私は聖書の学びに夢中になって没頭している。私はそれが神のことばであると信じている。なぜならそれは私がどこにいるのかを探し出すからだ。**」と言いました。フランスの軍人ナポレオンは、「**聖書は単なる書物ではない。それに反対するすべてのものを征服する力をもつ生き物である。**」と言っています。目、耳、口が不自由という三重苦を負ったヘレン・ケラーは、こう言いました。「**私が毎日、もっとも愛読する書物、それは聖書です。私の辞書に”悲惨”という文字はありません。聖書はダイナミックな力であり、変わることのない理想を示すものです。**」

すると「これは、西洋文明を支えたのかもしれないが、日本には関係のないことだ。」と言われるかもしれません。いいえ日本人でも、今上天皇の叔父にあたる三笠宮崇仁(たかひと)親王は、こう言われました。「**私は戦時中に敵を知ろうと、キリスト教を調べ聖書にぶつかった。初めは文明を誇る白人がなぜこんなものを信じるのかと笑ったが、聖書が歴史的事実と知ったとき、聖書から離れられなくなった。**」真珠湾攻撃の空襲の総指揮官であった淵田美津雄氏はこう言っています。「**私は熱心に聖書を読みました。私の人生観はキリストによって完全に変えられました。**」そして東大名誉教授で日本女子大学学長であった隅谷三喜男氏は、「**旧約聖書も新約聖書も、神が歴史の中で働いてきたことを告白している書物です。**」と告白しています。そして小説家で、映画化、ドラマ化、漫画化されるロング・セラー「氷点」を書いた三浦綾子さんは、こう言いました。「**聖書は不思議な本で、たとえ私たちが読み通さなくても、私たち人間を根本から作り変える力がある。生きる力を与え、望みを与える本なのである。**」いかがでしょうか、これほどの評価を受けている書物は聖書以外にありません。

2A 賢くする仰せ 98-100

ましてや、キリストを信ずる者たちがどれほど、一日中、主の言葉から思いが離れなくなるほど愛しているでしょうか。98 節から、この詩を書いた人は主の言葉によって三者よりも賢くなる、わきまえを持つようになると言い述べています。一人は、敵です。もう一人は、すべての師匠です。そして三人目は、老人たちであります。

1B 敵よりも 98

98 あなたの仰せは、私を私の敵よりも賢くします。それはとこしえに、私のものだからです。

神は真理であり、その言葉は真実です。けれども、それを無きものにしようとし、歪める敵がいます。悪魔です。悪魔はエバに対して、主が語られた言葉を曲げました。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。(創世 3:1)」このようにして、神の言われたことに疑いをかけ、そして歪めて、偽りを語るのが悪魔です。使徒パウロは、「2コリント 2:11 私たちはサタンの方針を知らないわけではありません。」と言いました、サタンには策略があります。何とかして、私たちの信仰を揺るがし、それを摘み取り、私たちが神への信仰から離れさせようとしています。しかし、詩編の著者は「あなたの仰せは、私を私の敵よりも賢くします。」と告白しています。

私たちの主イエス・キリストは、悪魔に対して御言葉によって対抗されました。荒野で四十日、断食をされた後に、悪魔がイエス様に近づき、「あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。」と言いました。四十日も断食しているのだから、自分の力を自分のために使って何が悪いのでしょうか？いいえ、これが悪元であり、あらゆる権力の乱用はこの誘惑に従っているからに他なりません。イエス様は、神の言葉で対抗されました。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」そして悪魔はイエス様を、神殿の頂上に立たせて、「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」なんと悪魔は、神の言葉を使ってまでイエス様を誘惑しました。しかしその言葉の引用は歪められています。それでイエス様は再び、御言葉によって対抗されるのです。「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」最後に悪魔は、世界の栄華を見せて、「私を拝むならば、これを全部差し上げましょう。」と言いましたが、イエス様は、「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」と最後まで、神の言葉によって対抗されたのです。

イエス様は、決してご自分の見ていること、感じていること、またこれまでの知識に頼るのではなく、もっぱら主ご自身の言葉を優先されたのです。「愛する」というのは、「好き」という意味以上の言葉です。どんなに自分にとって大切なものがあっても、それよりもこれが大事という時に、それを「愛している」と言います。イエス様は御言葉を愛したがゆえに、悪魔に抵抗できたのです。

2B 師よりも 99

そして次に、とても大切な告白を著者はしています。99 私は私のすべての師よりも悟りがあります。それはあなたのさとしが私の思いだからです。

「すべての師よりも悟りがある」と言っています。言い換えれば、これまで教えられてきた知識よりも、神の諭しは自分を悟らせるということです。自分で感じて、これが正しいと思う、その知性こそが自分の拠り頼むべきものだとして多くの人は考えます。主が語られていることは、理に適わない。これは知性を押しつぶすとして、聖書の権威を認めない人々がたくさんいます。そしてキリストを信じた者であっても、自分の感じていることや思っていることを神の言葉よりも優先させることがあります。そのほうが理に適っていて、賢いと思うからです。

私たちは先週、イースターを祝いました。そして私たちは毎週、主が死者から復活されたことを覚えて、このように礼拝しています。死者がよみがえることは、理に適わないとして信じない人たちがいます。しかし、それは理に適わないこと、理解できないものは存在しないという前提に立っているからです。けれども、理解できないものがこの世に現に存在することを無視している点をお話ししました。エジプトのピラミッドは、まだ全科学的に解明されていない部分がたくさんありますが、それでも現に存在しています。同じように、イエスが甦らなかつたら、どうしても説明できない事実があります。死に至るまで信仰を捨てなかった弟子たち、そして今にまで続く信仰者たちの証しです。人を根本から変える力は、キリスト者の変化を見れば歴然としているのです。

新約聖書当時、ユダヤ教の中にサドカイ派がいました。彼らは復活を信じていませんでした。イエスに、「七人の夫が次々と死んで、終わりの日によみがえったならば、その妻はだれの妻になっているのですか。」という質問をしました。イエス様は、こう言われました。「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからです。(マタイ 22:29)」自分たちを理性で賢いとしていたサドカイ派の人たちは、イエス様から第一に、聖書を知らないと言われ、第二に神の力を知らないと言われています。自分たちを賢いとしながら、実は無知な者となり、また神に活きた力を知らずに生きているのです。

聖書を信じることは、決して知性を殺すことではありません。いいえ、聖書に啓示されている神を認めないことこそ、知性を暗くするものです。「ローマ 1:21-22 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、…」と使徒パウロは言っています。神を認めないので、思いは暗くなり、心は鈍くなり、それであらゆる貪りを行なうようになりました。そして、知性では愚かに見えるキリストの十字架こそが、神の知恵であることをパウロは述べています。「1コリント 1:23-24 しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かですが、しかし、ユダヤ

人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。」そして私たちは、御霊によって理解力が与えられ、自然の知性では悟ることができないことを悟るようにしてくださいました(1コリント 2:9-11)。

信仰生活を歩んでいると、もっともらしい議論が入ってきます。キリスト教会の中に、私たちのキリスト信仰が愚かで、偏狭であり、反知性であることが論じられていきます。それを使徒たちは、手紙の中で何度となく気をつけるように注意しました。「コロサイ 2:3-4 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたがたをあやまちに導くことのないためです。」だから、私たちは知性や知識が最も大事なのだとする力に対抗して、主の仰せを愛するのです。

3B 老人よりも 100

そして次もとても大切な言葉です。100 私は老人よりもわきまえがあります。それは、私があなたの戒めを守っているからです。

老人よりも弁えがあるということですが、言い換えると二つのことを言うことができます。老人あるいは長老と言ったらよいでしょうか、彼らには二つの特徴があります。一つは、経験です。これまでの人生経験から、さまざまな知恵と分別力が与えられています。もう一つは、伝統です。先人たちの知恵を受け継いで、その言い伝えを若い世代に受け継がせようとしています。

経験についてですが、ヨブの友人エリファズは、ヨブよりもずっと年上でしたが、自分の神との出会いを話して彼に教えようとしていました。「ヨブ 4:12-17 一つのことばが私に忍び寄り、そのささやきが私の耳を捕えた。夜の幻で思い乱れ、深い眠りが人々を襲うとき、恐れとおののきが私にふりかかり、私の骨々は、わなないた。そのとき、一つの霊が私の顔の上を通り過ぎ、私の身の毛がよだった。それは立ち止まったが、私はその顔だちを見分けることができなかった。しかし、その姿は、私の目の前にあった。静寂…、そして私は一つの声聞いた。人は神の前に正しくありえようか。人はその造り主の前にきよくありえようか。」彼はこの貴重な経験に基づいて、ヨブに罪があるから彼の苦しみがあるのだと論じましたが、いいえ、彼は間違っていました。

私たちは、いろいろな経験をします。しかし、その経験をさえ主の戒めに比べたら、頼りになるものではありません。申命記 13 章には、預言者や夢見る者について真理かどうかを見分けなさいと命じられている箇所があります。「1-4 節 あなたがたのうちに預言者または夢見る者が現われ、あなたに何かのしるしや不思議を示し、あなたに告げたそのしるしと不思議が実現して、「さあ、あなたが知らなかったほかの神々に従い、これに仕えよう。」と言っても、その預言者、夢見る者のことばに従ってはならない。あなたがたの神、主は、あなたがたが心を尽くし、精神を尽くして、ほんとうに、あなたがたの神、主を愛するかどうかを知るために、あなたがたを試みておられるからである。あなたがたの神、主に従って歩み、主を恐れなければならない。主の命令を守り、御声に聞

き従い、主に仕え、主にすがらなければならない。」

いかがでしょうか、微や不思議を目の前で見て、それで「他の神々に従おう」と言ってくる人がいたら、どうしても今、この肉眼で見たことに引き寄せられますね。しかし、それは主を愛しているのかどうかを試すために、主がそれをお許しになられているということなのです。私が大学生の時に、ある異端の教会に訪ねて、そこでその教会の宣教師に私の心がどうなっているかある程度、言い当てられました。私は、主の憐れみによってその教会から逃げ出すことができましたが、今、その教会の教祖は、性的嫌がらせを女性信徒に働き、牢屋に入れられています。このようにして、体験が真実なのではないということを、私たちは試されています。

ペテロは、このことについてへりくだった人でした。彼は、ヤコブとヨハネと共に高い山でイエス様が変わり、栄光の姿で現われたのを目撃しました。けれども、彼はそれを信仰の究極の投げ所にはしなかったのです。「2ペテロ 1:16-19 私たちは、あなたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせましたが、それは、うまく考え出した作り話に従ったものではありません。この私たちは、キリストの威光の目撃者なのです。キリストが父なる神から誉れと栄光をお受けになったとき、おごそかな、栄光の神から、こういう御声がかかりました。「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」私たちは聖なる山で主イエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いたのです。また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」ペテロの体験は本物でした。それにも関わらず、彼は預言のみことばを「さらに確かな」ものであると断言しているのです！なぜなら、それは「21 節 人間の意志によってもたらされたものではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。」と言っています。聖霊によって書かれたのだから、さらに確かなのです。

私たちは、体験は素晴らしいことだと思います。しかし、体験を求めるよりもキリストにつながっていることのほうが、はるかに喜びに満ち、栄えに満ちたものであります。コロサイにある教会で、天使礼拝に傾いている人々がいました。幻を見ることもあったようです。けれども、神の天使にも会ったことがあり、数ある幻も見たことのあるパウロが、こう断言します。「コロサイ 2:18-19 あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、(キリストの)かさらに堅く結びつくことをしません。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び合わされて、神によって成長させられるのです。」同じく、ペテロもキリストを知ることこそがこの上もない喜びであることを、次のように述べています。「1ペテロ 1:8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。」

そして、老人たちに特徴的な「言い伝え」について考えましょう。まず、私たちは言い伝えをなお

がしろにしてはいけないということは伝えなければいけません。そこには先人たちの知恵があり、そこに神が介在されていることはたくさんあるからです。実に、教会というのは使徒たちの言い伝えを堅く守っているところであり、言い伝え自体を否定するものではありません。使徒パウロがコリントにある教会の人たちにこう言いました。「1コリント 11:1-2 私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。さて、あなたがたは、何かにつけて私を覚え、また、私があるあなたがたに伝えたものを、伝えられたとおりに堅く守っているのです、私はあなたがたをほめたいと思います。」

けれども、私たちは人の教えによって、神の命令をないがしろにすることがしばしばあります。形だけを守ることによって、主に命じられていることを行なわなくさせる妨げになることがあります。イエスはパリサイ人たちについて、こう言われたことがあります。「マルコ 7:6-8 イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。彼らが、わたしを拜んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」

私たちの多くは、これまでやってきたことの中に留まることを、主が命じられることに応答することによって、新しい御霊の働きの中に入るのを拒むことがあります。言い伝えといたら大袈裟でしょうが、これまで親しんでいた環境や組織や集まりも、ある意味で人のしきたりです。それは、自分をこれまで生かすのに役に立ったかもしれませんが、決してそこには命がありませんでした。それよりも、主の命令に従うことによって、これまでの自分のあり方を捨てることでもあり、主の御霊に働いていただくことができます。ペテロが言いました。「1ペテロ 1:18-19 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」形はあっても、命も中身もない空しい生き方なのです。

いかがでしょうか、私たちはこれだけ御言葉を愛しているでしょうか？御言葉は、時代がどう変わろうともいつまでも変わることはない真実な言葉です。実に、この天と地は神の御言葉によって造られました。私たちの思いは変わります。だから知性を最高権威にすることはできません。私たちの体験も私たちを騙します。だから体験や経験だけに頼ることもすぐに揺らぎます。人の言い伝えは、いつまでも人に大きな力を及ぼしますが、しかし勇気を出してそこから出てきて、主の命令に従ってみてください。そのことによって、私たちは敵よりも賢くなり、悪の道から遠ざかることができるようになり、終わりまで心を主に向けていることができるのです。この詩の著者は、「あなたのみことばは、蜜よりも私の口に甘いのです。(103 節)」と言いました。主を愛して、主の御言葉を何にも増して愛し、慕ってください。

詩篇

119:113 私は二心の者どもを憎みます。しかし、あなたのみおしえを愛します。

119:119 あなたは、地上のすべての悪者を金かすのように、取り除かれます。それゆえ私は、あなたのさとしを愛します。

119:127 それゆえ、私は、金よりも、純金よりも、あなたの仰せを愛します。

119:131 私は口を大きくあけて、あえぎました。あなたの仰せを愛したからです。

119:140 あなたのみことばは、よく練られていて、あなたのしもべは、それを愛しています。

119:159 ご覧ください。どんなに私があるあなたの戒めを愛しているかを。主よ。あなたの恵みによって、私を生かしてください。

119:163 私は偽りを憎み、忌みきらい、あなたのみおしえを愛しています。

119:165 あなたのみおしえを愛する者には豊かな平和があり、つまずきがありません。

119:167 私のたましいはあなたのさとしを守っています。しかも、限りなくそれを愛しています。